

## <機械・農作業の共同化に取り組む事例>

# ○機械・農作業の共同化による農地の保全

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	やまのべまち おおわらび 山形県山辺町 大 蔵			
協 定 面 積 25.5ha	田（82%）	畑（18%）	草地	採草放牧地
	水稲、そば等	野菜等		
交 付 金 額 379万円	個人配分 50%			
	共同取組活動 (50%)	役員手当、体制整備（景観作物作付け・会議費）		5%
		水路、農道等の維持・管理費（共同作業等）		19%
		積立て（農道・用排水路補修）		26%
協 定 参 加 者	農業者 52人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	作成していない（話し合いを実施中）			

### 2. 取組に至る経緯

大蔵集落は、県都山形市の西側、山辺町の山間部に位置し、急傾斜地などの棚田で稲作が中心の地域である。また、個人ごとの小規模な耕作地が多く、農業従事者の高齢化も進行するなかで地域農業が抱える課題の解決や、集落営農的な作業の共同化を進めるために集落協定を締結し、中山間地域等直接支払制度に取り組んでいる。第2期対策までは、何とか高齢農家も参加して保全活動などに当たってきた。現在は年々深刻になる農業者の高齢化と転作率の強化による農業所得の低下に歯止めをかけ、共同作業による経営改善などに取り組んでいる。

### 3. 取組の内容

前対策への取組みでは、地域の農業者が協力して棚田保全などの活動を行ってきたが、農業者の高齢化や後継者不足など過疎の進む山間地農業の抱える課題は深刻化しており、第3期対策においては農地の保全と農業の継続が喫緊の課題となっている。

このため、農業従事者の高齢化と後継者不足による負担を軽減しながら、農地の保全や休耕地の発生防止を継続していくために、作業機械や農作業の共同化に取り組んでいる。



【大蔵集落の風景】



【ミニライスセンターの共同使用】

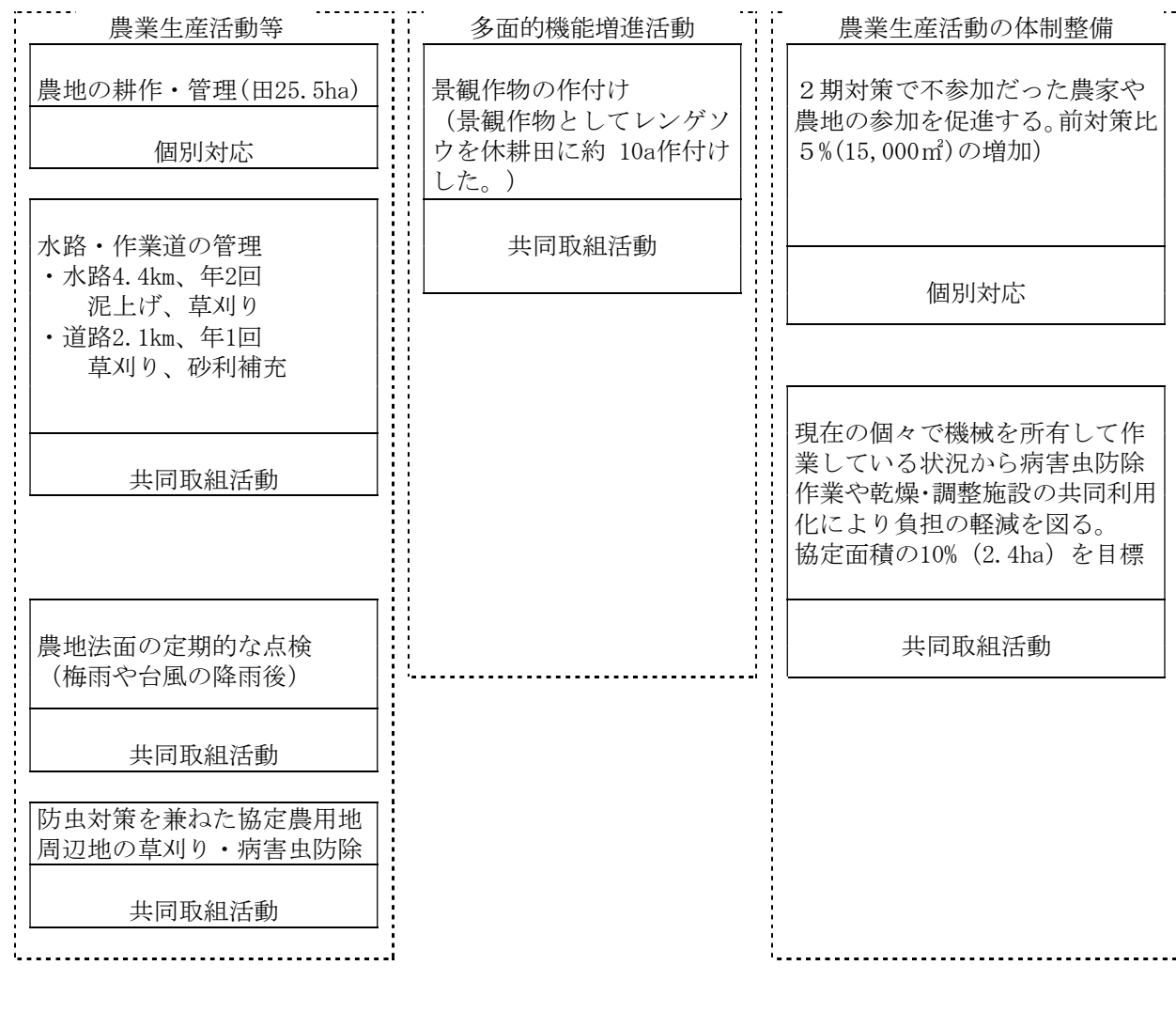
### 【集落の将来像】

- 過疎化が進む山間集落では高齢化と後継者不足により、個人で農地を維持していくことは困難となることから、地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制の整備を図る。  
また、農地の保全についても中山間地域等直接支払制度を利用して協定参加者が一致協力することで農地・集落環境の維持を図っていく。



### 【将来像を実現するための活動目標】

- 協定に参加する農用地を拡大するとともに病虫害防除の機材や乾燥・調整施設の利用を共同化することで今後も持続可能な農業生産活動等の体制整備を図っていく。



## 4. 今後の課題等

今後も、地区住民を中心として持続可能な農業生産活動等の体制を整備することで新たな農村環境を構築していきたい。また、地区外へ棚田景観などの資源を活かした情報発信を行い、農業体験を通じて消費者との農村交流を促進していきたい。

### 【第2期対策の主な成果】

- 棚田の景観保全活動として集落独自の杭掛け風景を維持するために共同で取り組んできた(6.0ha)
- 週末や農繁期などを中心に農作業風景を撮影する行楽客が棚田を訪れるようになった(約100人/年)